教育実習サポートガイド別冊

(事例・アドバイス集)

近年の「経験の浅い教員の増加」「学校業務の多忙化」等を踏まえた、これからの教育実習のモデル事例を掲載しています。

後半は、実習指導における悩みに対する、学校の管理職やベテラン教員からのアドバイス等を掲載しています。

事例やアドバイスの中に、ヒントになることがきっとあるはずです。是非、御活用ください。

令和６年４月改訂

横浜市教育委員会

目次

Ⅰ　柔軟で効果的・効率的な教育実習モデル事例

解説、各事例の中で工夫している点の一覧――――――――――――――P２

【小学校、義務教育学校前期課程の教育実習】

◆「チームで指導し負担を分散、行事があっても授業は重視」――――P５

◆「実習前から子どもと関わり、授業の中でもコミュニケーション重視」――P７

【中学校、高等学校、義務教育学校後期課程の教育実習】

◆「スモールステップを踏みながら丁寧に授業実践指導」――――――P９

◆「週半ばスタートで休日が３回に！　教員の模倣から学ぶ実践的なプラン」-P11

【特別支援学校の教育実習】

◆「Ｔ２からＴ１へ。子ども・教員とのコミュニケーションを重視したプラン」――P13

◆「大学との連携で効果アップ！　１週間実習→１週間大学→１週間実習」――P15

【養護実習】

◆「多くの子どもたちや教職員と関わりをもち、養護教諭の重要性を知る」―P17

Ⅱ　学校・大学教員等からのアドバイス

１　学校の管理職やベテラン教諭からのアドバイス

質問１　児童生徒に、実習生の授業を落ち着いて受けさせるには？――P19

質問２　実習生の授業を、児童生徒にとってよりよいものにするには？――――P21

質問３　指導する側が気を付ける点や実行するとよいことは？――――P23

質問４　実習における過去の成功例、失敗例は？――――――――――P25

質問５　実習指導の負担を軽減する工夫や秘訣は？――――――――――P27

２　大学教職員・学生からの声

１　実習校での指導の中で、学生にとって効果的だと感じたことや
よかった点は？――――――――――――――――――――――――――――P29

２　教育実習で学生が困った点と大学から実習校へのお願い――――――P30

大学教職員から――――――――――――――――――――――――――――P32

Ⅰ　柔軟で効果的・効率的な教育実習モデル事例

教育実習は、後進を育てるために、なくてはならないものです。しかし、通常の業務を行いながら教育実習生を指導するので、指導教員にとって負担が大きいのも事実です。さらに、近年、次のような課題があります。

経験の浅い教員の増加　　**学校業務の多忙化**

☞教育実習指導者の最多層は教員経験５～10 年

このようなことから、かつてベテラン教員中心に行っていた教育実習と、同じ指導方法を続けていくことが難しくなってきています。

しかし、逆転の発想で、最近は、経験の浅い教員を、あえて教育実習指導教員に登用する学校も増えています。

実習指導を通して、経験の浅い教員が成長する、人材育成の機会に

【学校から】
・中堅教員から登用
・本校が２校目となる教員の中から指名
・サブリーダー的な力を伸ばしたい人に担当してもらう　　など

大学教員からも、「経験の浅い教員による指導は、実習生にとって、近い存在のロールモデルとなり勉強になる。」というお話を頂いています。

これからの教育実習は、

経験の浅い教員も指導が行いやすい　　**通常業務との両立が可能**

その上で、教育実習の質を維持でき、さらに、実習生が、

教員の魅力を感じることができる教育実習

そのような教育実習が理想的です。

平成 30 年度の横浜市大学連携・協働協議会では、多くの学校管理職・教員、及び大学教職員等が集まり、

弾力的で、効果的･効率的な教育実習

の在り方について協議を行いました。
協議会で検討した、モデル事例を参考にまとめたものを紹介します。

Ｐ５～Ｐ18 に「小学校、義務教育学校前期課程の教育実習」の事例、「中学校、高等学校、義務教育学校後期課程の教育実習」の事例、「特別支援学校の教育実習」の事例、「養護実習」の事例を掲載しています。

それぞれの事例の中には、他の校種の教育実習（養護実習）でも活用できる取組もあります。一覧にして紹介します。

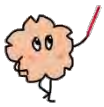
掲載の事例に、更に工夫を加え、各学校の状況に合ったプランを作成してみてください。

♣ 各事例の中で工夫している点の一覧 ♣

※校種・職種独自のものはここには掲載しません。各校種等のページを御覧ください。

学校体験の活動（ボランティア等）期間の利用

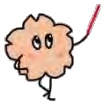
- ◆ 学級担任業務の見学、個別支援学級等の見学（Ｐ５）
- ◆ 講話の一部を実施（Ｐ５、７）
- ◆ 子どもたちとの人間関係づくり（Ｐ７）
- ◆ 実習前の行事に参加（Ｐ13）
- ◆ 示範授業の一部を実施（Ｐ15）



学校体験の活動期間に、教育実習（養護実習）の指導内容の一部を実施することで、実習への円滑な接続が図れ、さらには、実習期間中の活動にゆとりが生まれます。

大学担当者と連携した取組

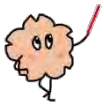
- ◆ 学習指導案の下準備（P5、７、11）
- ◆ 講話の一部をＥラーニング化し、実習前にあらかじめ見てもらう（Ｐ13）
- ◆ 事前に大学担当者と連絡をとり、講話を調整（既習の内容を割愛）（Ｐ15）



大学担当者と事前に連絡を取り合うことで、既習の部分を実習で省くことができます。また、実習生の様子を事前に把握できることで、指導計画が立案しやすくなります。

学校事前打合せ

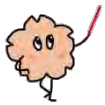
- ◆ 講話の一部を実施（P5、７、９、11、13、15）
- ◆ 示範授業の一部を実施（Ｐ７、11、13）
- ◆ 学級担任の業務の見学（Ｐ７、11、13）
- ◆ 事前打合せの日に「校内授業研究」を当て、実習生にも見学させる（Ｐ９）
- ◆ 学校の一日（半日）見学（Ｐ17）



事前打合せの日を有効に使うことで、実習初日から、実践的な取組を行うことが可能になります。

講話

- ◆ 講話の一部をＥラーニング化（Ｐ5）
- ◆ 講話の一部を専科の時間に充てる（Ｐ5）
- ◆ 講話の一部をＥラーニング化し、放課後の空いた時間に見る（Ｐ13）



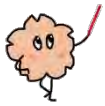
これらの工夫により、実習前半から実践的な取組を行うことが可能になります。

示範授業、諸活動の見学

- ◆ 示範授業を分担（Ｐ５）
- ◆ 示範授業は様々な学年で実施（Ｐ５）
- ◆ 授業中に校内を自由に見学（Ｐ5）
- ◆ 実習前半は様々なクラスを見学（Ｐ７）

授業実践

- ◆ 指導担当を分担（Ｐ５）
- ◆ 学習指導案はシンプルなものでよい（Ｐ11、13、15）
- ◆ 早い時期から学習指導案の作成（Ｐ5、９）
- ◆ 前半は、指導教員の授業を参考に、実習生が学習指導案を作成し実践（Ｐ９）
- ◆ 指導教員の学習指導案（又は略案）を用いて授業実践（Ｐ７）
- ◆ １週目からＴＴで授業実践（Ｐ5、７、11）
- ◆ 示範授業→Ｔ２として授業実践→Ｔ１として授業実践→ 一人で授業実践→まとめの研究授業(P9)
- ◆ まとめの研究授業は設けない（Ｐ5、７、11、13）
- ◆ 日々の振り返りと授業改善のための打合せをこまめに実施（Ｐ９）



指導教員と実習生の負担を軽減し、効果的・効率的に行うための様々な工夫を行っています。

その他

- ◆ 実習生の日誌の記入、及び、指導教員のコメントを簡略化（Ｐ５、13）
- ◆ 週末に、週の振り返りと次週の見通しを確認する時間を設ける（Ｐ７）
- ◆ 放課後は、極力、子どもとの関わりを多くもてるように時間を確保（Ｐ９）
- ◆ 日々の退出時間のリミットを設ける（Ｐ11）
- ◆ 週の半ばに実習をスタートすることで実習中の休日の回数を増やす（Ｐ11）
- ◆ 会議等への参加（Ｐ17）

教育実習サポートガイドＰ５～、特別支援学校編Ｐ５～、養護教諭編Ｐ７～にも指導内容の柔軟な運用についての解説がありますので、併せて御利用ください。

★「教育実習生用事前Eラーニング」も御活用ください。講話時間の短縮につながります。
実習前に、実習生へURL(YouTube)を伝え、実習時までにあらかじめ視聴してもらいます。
YCAN→区局 Web→教育委員会事務局→教職員育成課→大学連携関係→教育実習→システムガイド、要綱等
（YCAN端末から）http://inw1.office.ycan/b/ky/ikusei/20190710160746.html#A

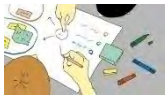
【小学校、義務教育学校前期課程】①

ポイント	チームで指導し負担を分散、行事があっても授業は重視

４週間の教育実習期間に大きな行事があるなかで、授業実践をしっかり行う、という事例です。様々な工夫をし、期間中の授業実践の時間を確保しています。各指導を分担することで、指導教員の負担を軽減しています。

この事例は、２週間の教育実習においても応用ができます。

工夫している点



１　教育実習前の取組

学校体験の活動（ボランティア等）期間の利用

◆ 学級担任業務の見学、個別支援学級等の見学　◆ 講話の一部を実施

留意点　計画的に実施できるよう予定を立てる。

大学担当者と連携した取組

◆ 学習指導案の下準備（大学教員に指導を受ける）

留意点　担当学年の教科書と学習指導案のひな形を実習生に渡しておく。
学校体験の活動の中で、教科や単元の指示を指導教員が行う。

→ **そのためには、事前に実習期間中の授業の見通しをもつ必要がある。**

学校事前打合せ

◆ 講話の一部を実施

留意点　計画的に実施できるよう予定を立てる。

２　教育実習中の取組

チームでの取組

◆ 学年で示範授業を分担　◆ 教科により指導担当を分担

留意点　チームで互いにフォローし合う。

授業実践

◆ １週目からＴＴで授業実践　◆ 早い時期から学習指導案の作成

◆ まとめの研究授業はなくてもよい（行う場合はその教科の前の単元から担当させる）

留意点　指導教員が見通しをもち、計画的に進めることが大切。

その他

◆ 講話の一部をＥラーニング化　◆ 講話の一部を専科の時間に充てる

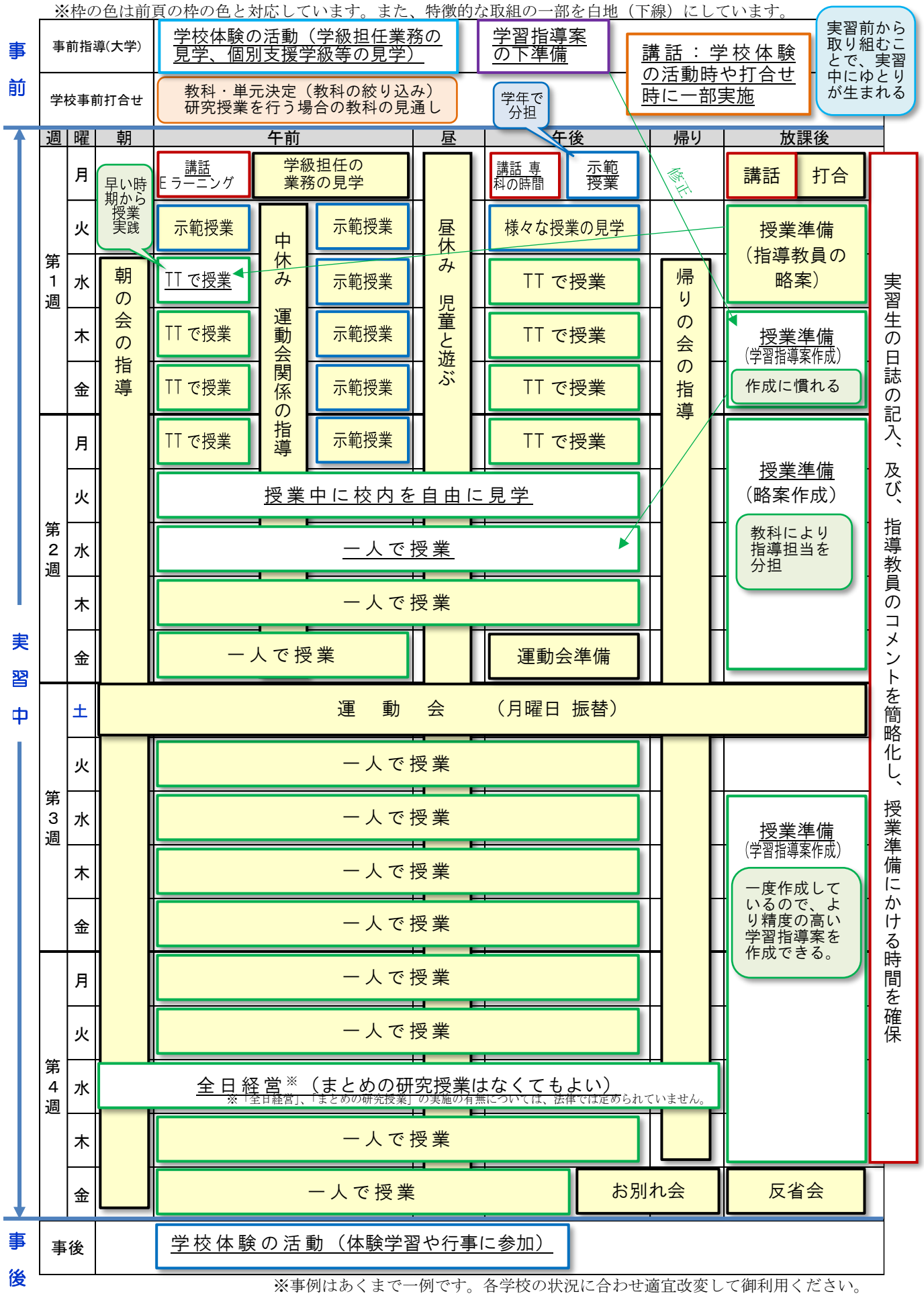
◆ 授業中に校内を自由に見学

◆ 実習生の日誌の記入、及び、指導教員のコメントを簡略化

留意点　できる限り、授業時間、授業準備の時間を多く確保する。

教育実習サポートガイド別冊（事例・アドバイス集）

※枠の色は前頁の枠の色と対応しています。また、特徴的な取組の一部を白地（下線）にしています。



※事例はあくまで一例です。各学校の状況に合わせ適宜改変して御利用ください。

【小学校、義務教育学校前期課程】②

ポイント	実習前から子どもと関わり、授業の中でもコミュニケーション重視

多くの人との関わりを通して、児童理解とコミュニケーション力の育成を行うことに重点を置いた事例です。

授業中も、子どもとの関わりに専念できるよう、教員の学習指導案(略案)を用いる授業実践を多く設けています。

この事例は、２週間の教育実習においても応用ができます。

工夫している点

１　教育実習前の取組

学校体験の活動（ボランティア等）期間の利用

◆ 子どもたちとの人間関係づくり　◆ 講話の一部を実施

留意点　多くの子どもたちと関われるよう配慮する。

大学担当者と連携した取組

◆ 学習指導案の下準備（大学の教科教育の授業にもフィードバック）

留意点　指導教員が大学の教員と連絡を取り合い、情報共有する。

→ **そのためには、事前に実習期間中の授業の見通しをもつ必要がある。**

学校事前打合せ　（可能であれば数回実施）

◆ 講話の一部を実施　◆ 示範授業　◆ 学級担任の業務の見学　等

留意点　指導教員だけではなく、学年全体で対応する。

２　教育実習中の取組

多くの人との関わり

◆ 実習前半は様々なクラスを見学　◆ 示範授業は低・中・高学年全て実施

◆ 専科の補助　◆ 全力で児童と遊ぶ

留意点　多くの教職員、児童が触れ合える機会を学校全体でつくる。

授業実践

◆ １週目からＴＴで授業実践　◆ 教員の学習指導案(略案)を用いて授業実践

◆ まとめの研究授業は設けない（毎日が研究授業であるという考え方）

留意点　指導教員が軌道修正しながら、効率よく進める。

その他

◆ 児童が来る前から教室で待つ

◆ 週末に、週の振り返りと次週の見通しを確認する時間を設ける

留意点　実習生の活動時間の管理をしっかり行う。

教育実習サポートガイド別冊（事例・アドバイス集）

※枠の色は前頁の枠の色と対応しています。また、特徴的な取組の一部を白地（下線）にしています。

事前

事前指導(大学)	学校体験の活動(子どもたちとの人間関係づくり)／学習指導案の下準備 → 大学の教科教育の授業にもフィードバック／講話：学校体験の活動時や打合せ時に一部実施
学校事前打合せ	学年全体で対応 今後の見通しを説明／打合せの後、授業や学級担任の業務を見学

実習前から取り組むことで、実習中にゆとりが生まれる

実習中

週	曜	朝	午前		昼	午後	帰り	放課後	
第1週	月	全ての学年で実施	講話	示範授業(中)	昼食・掃除は児童と一緒に 昼休み 児童と遊ぶ	示範授業(中)	多くの人との関わり	講話	打合
	火	朝の会の指導（児童が来る前から教室で待つ）	示範授業(低)	示範授業(低)		様々な授業の見学		全力で児童と遊ぶ	
	水		示範授業(高)	専科の補助		個別支援学級等の見学	帰りの会の指導		
	木		TT で授業	示範授業(高)		授業準備			
	金		示範授業(中)	TT で授業		教員の学習指導案を用い一人で授業		振り返りと次週の見通し確認	
第2週	月		示範授業(中)	TT で授業		教員の学習指導案を用い一人で授業		放課後 児童と遊ぶ	打合せ／授業準備・日誌記入（時間をかけすぎない）
	火		示範授業(中)	TT で授業		教員の学習指導案を用い一人で授業			
	水		示範授業(中)	TT で授業		行事準備			
	木		行事での指導			授業準備			
	金		示範授業(中)	TT で授業		授業準備		振り返りと次週の見通し確認	
第3週	月		担任の学習指導案を用い一人で授業			学級担任の業務を TT で			
	火	子どもとの関わりに専念できる	教員の学習指導案を用い一人で授業			道徳等の指導			
	水		教員の学習指導案を用い一人で授業			授業準備(学習指導案作成)			
	木		教員の学習指導案を用い一人で授業			行事での指導			
	金		教員の学習指導案を用い一人で授業			TT で授業		振り返りと次週の見通し確認	
第4週	月		教員の学習指導案を用い一人で授業			授業準備(学習指導案作成)			
	火		教員の学習指導案を用い一人で授業			授業準備(学習指導案作成)			
	水		実習生の学習指導案を用い一人で授業			道徳等の指導			
	木		教員の学習指導案を用い一人で授業			TT で授業			
	金	まとめの研究授業は設けない	教員の学習指導案を用い一人で授業				お別れ会	反省会	

事後

事後	学校体験の活動（着任への準備）

※事例はあくまで一例です。各学校の状況に合わせ適宜改変して御利用ください。

【中学校、高等学校、義務教育学校後期課程】①

ポイント	スモールステップを踏みながら丁寧に授業実践指導

スモールステップを踏みながら、実習生が考える時間を確保し、丁寧に授業実践を行っていく事例です。

学習指導案の作成は、従来のように実習後半に膨大な時間を費やし作成するのではなく、実習開始時からとりかかり徐々に作成に慣れていきます。

そのため、学習指導案作成に追われ、生徒との関わりの時間が減ったり、過度に遅くまで学校に残ったりということがなくなります。

この事例は、２週間の教育実習においても応用ができます。

工夫している点

１　教育実習前の取組

学校事前打合せ

◆ 事前打合せの日に「校内授業研究」を当て、実習生にも見学させる

◆ 講話の一部を実施

留意点　実習中に取り扱う単元等や教科書をあらかじめ実習生に伝えておく。
実習中の指導計画、学習指導案の書式を実習生に伝える。

２　教育実習中の取組

授業実践

◆ 示範授業→Ｔ２として授業実践→Ｔ１として授業実践→ 一人で授業実践→まとめの研究授業

◆ 学習指導案作成を実習開始時から実施

◆ 前半は、指導教員が行った授業を参考に、実習生が学習指導案を作成し実践

◆ 日々の振り返りと授業改善のための打合せをこまめに実施

→実習生の指導により、授業の質が低下することを防ぐ。

→軌道修正することで、実習生の活動に大きなロスタイムが生じない。

留意点　学習指導案作成や授業準備の時間をしっかり確保する。
全ての授業を任せるのでなく、実習生の資質・能力に合わせ調整する。

その他

◆ 放課後は、極力、生徒との関わりを多くもてるように時間を確保

留意点　実習生の活動時間の管理をしっかり行う。

※枠の色は前頁の枠の色と対応しています。また、特徴的な取組の一部を白地（下線）にしています。

事前

事前指導(大学)	実習中に取り扱う単元等や教科書をあらかじめ実習生に伝えておく
学校事前打合せ	実習中の指導計画、学習指導案の書式を実習生に伝える 打合せの後、「校内授業研究」を見学 講話の一部を実施

授業を行う教員にとってもよい学びになる

打合せをこまめに設定し軌道修正

実習中

週	曜	朝	午前		昼	午後		帰り	放課後	
第1週	月	紹介	講話		昼食指導等	示範授業		短学活の見学	打合せ	
	火	短学活の見学	示範授業 実習生は学習指導案作成			個別支援学級等の見学			委員会活動・部活動へ参加	打合せ・授業準備・日誌記入
	水		示範授業 実習生は学習指導案作成			T2で授業	道徳等の見学			
	木	短学活の指導	示範授業 実習生は学習指導案作成			T2で授業	他の授業の見学	短学活・清掃等の指導		
	金		示範授業 実習生は学習指導案作成			T2で授業	打合せ			
第2週	月		T1で授業	打合せ		個別支援学級をTTで				
	火		T1で授業	打合せ		教材研究	まとめの研究授業の学習指導案の作成			
	水		T1で授業	打合せ		道徳等をTTで				
	木		一人で授業	打合せ		教材研究				
	金		一人で授業	打合せ		教材研究			まとめの研究授業の打合せ	
第3週	月		一人で授業	打合せ		教材研究				
	火		一人で授業	打合せ		教材研究				
	水		一人で授業	打合せ		道徳等の指導				
	木		一人で授業	打合せ		まとめの研究授業の準備				
	金		まとめの研究授業※ ※「まとめの研究授業」の実施の有無については、法律では定められていません。			一人で授業			反省会	

学習指導案の作成に慣れる

生徒と関わる時間も確保

事後

事後	可能であれば学校体験の活動（学習支援、行事補助等）

※事例はあくまで一例です。各学校の状況に合わせ適宜改変して御利用ください。

【中学校、高等学校、義務教育学校後期課程】②

ポイント	週半ばスタートで休日が３回に！ 教員の模倣から学ぶ実践的なプラン

実習開始日を週の半ばスタートとする事例です。土日が３週間の実習において３回になり、実習生が身体を休める機会が多くなるため、心身にゆとりができ、効果的・効率的な指導が可能になります。

様々な教員の指導を模倣しながら、経験を積んでいく実践的なプランで、実習生が学校現場を体感しながら成長していくことができます。

この事例は、２週間の教育実習においても応用ができます。

工夫している点

１　教育実習前の取組

大学担当者と連携した取組

◆ 情報交換

→大学での取組が分かると、実習時に既習のことを行わずに済む

◆（事前の学校体験の活動が可能であれば）学習指導案の下準備

留意点　あらかじめ、実習中に行う単元等や学習指導案の書式等を伝えておく。

学校事前打合せ

◆ 講話の一部を実施　◆ 示範授業　◆ 学級担任の業務の見学　等

留意点　実習中に取り扱う単元等や教科書をあらかじめ実習生に伝えておく。
実習中の指導計画を実習生に伝える。

２　教育実習中の取組

実習生が実施しやすい取組

◆ 日々の退出時間のリミットを設ける

◆ 週の半ばに実習をスタートすることで実習中３回の休日が入る

◆ 様々な教員の指導を模倣しながら、経験を積んでいく

留意点　実習生の活動時間の調整をしっかり行う。

授業実践

◆ まとめの研究授業は設けない。（随時自由に見学してもらう）

◆ 学習指導案はシンプルなものでよい。（作成に時間をかけない）

◆ 早い時期から授業実践

→同じ内容の授業を数回経験させ、練り上げていくことで実習生が達成感をもてるように

留意点　生徒との対話を大切にした授業になるよう助言する。

教育実習サポートガイド別冊（事例・アドバイス集）

※枠の色は前頁の枠の色と対応しています。また、特徴的な取組の一部を白地(下線)にしています。

事前の学校体験の活動が可能であれば

実習前から取り組むことで、実習中にゆとりが生まれる

事前	事前指導(大学)		大学担当者と情報交換	あらかじめ、実習中に行う単元等や学習指導案の書式等を伝えておく						学習指導案の下準備					
事前	学校事前打合せ		実習中に取り扱う単元等や教科書をあらかじめ実習生に伝えておく				講話の一部を実施		示範授業		学級担任の業務の見学				
	週	曜	朝	午前			昼	午後		帰り	放課後				
実習中	第1週	木	週半ばスタート	講話(大学で既習の内容は割愛)			昼食指導等	個別支援学級の見学	学級担任の業務の見学	昼食指導等	打合せ	授業準備	日誌記入	日々の退出時間のリミットを設ける（逆算して時間内に収まるよう指導教員が活動時間を調整）	
実習中		金	短学活の見学	示範授業				打合せ	授業準備		委員会活動等に参加				
実習中	土日		実習中の休日が３回になるため、実習生の心身にゆとりができる。												
実習中	第2週	月	短学活の見学	示範授業	ＴＴで授業	早い時期から授業実践。経験から学ぶ。	昼食指導等	他教科の見学	打合せ	様々な教員の指導を模倣し、経験を積む。 短学活・清掃等の指導	合唱練習	部活動指導	授業準備	日誌記入	
実習中		火	短学活の指導	示範授業	ＴＴで授業			他教科の見学	打合せ						
実習中		水		指導教員の略案で一人で授業				打合せ	授業準備						
実習中		木		指導教員の略案で一人で授業				打合せ	学級担任の業務の見学						
実習中		金		指導教員の略案で一人で授業				学級担任の業務の見学	授業準備						
実習中	土日														
実習中	第3週	月	短学活の指導	実習生の略案で一人で授業			昼食指導等	打合せ	学級担任の業務の実践	短学活・清掃等の指導	合唱練習	部活動指導	授業準備	日誌記入	
実習中		火		実習生の略案で一人で授業				打合せ	授業準備						
実習中		水		実習生の略案で一人で授業				打合せ	授業準備						
実習中		木		合唱コンクール							打合せ		学習指導案作成		
実習中		金		学級担任の業務の実践	実習生の略案で一人で授業			学習指導案作成							
実習中	土日		シンプルでよい。（作成に時間をかけない）												
実習中	第4週	月	短学活の指導	学習指導案を使って授業	打合せ		昼食指導等	他の実習生の見学	授業準備	短学活・清掃等の指導	委員会・部活動等 指導	授業準備	日誌記入		
実習中		火		学習指導案を使って授業	打合せ			実習生の略案で一人で授業							
実習中		水	まとめの研究授業は設けない	学習指導案を使って授業	打合せ			実習生の略案で一人で授業			反省会				
事後	事後		可能であれば学校体験の活動（部活動支援、行事補助等）												

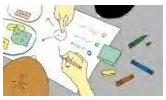
※事例はあくまで一例です。各学校の状況に合わせ適宜改変して御利用ください。

【特別支援学校】①

ポイント	T2からT1へ。子ども・教員とのコミュニケーションを重視したプラン

実習内容の中で省けるものを省き、その分、子どもと触れ合うことに実習生が集中できるようにする事例です。また、指導教員とのコミュニケーションの時間も確保し、特別支援学校の TT のよさを実習生に知ってもらうねらいもあります。

工夫している点



１　効率化

授業以外に関すること

- ◆ 講話の一部を事前打合せ時に実施
- ◆ 講話の一部をＥラーニング化し、実習前にあらかじめ見てもらう
- ◆ 講話の一部をＥラーニング化し、放課後の空いた時間に見る
- ◆ 日誌の記入の簡略化

留意点　講話を行うべき項目が多いため、あらかじめ講話の一部を録画しておく。

授業等に関すること

- ◆ 事前打合せ時に、授業や学級担任の業務を見学
- ◆ 一つのクラスに複数の実習生、という考え方も可能
- ◆ 学習指導案は略案型でシンプルに（指導教員のものを参考に）
- ◆ 示範授業を参考に、実習生が学習指導案を作成し実践
- ◆ まとめの研究授業は実習生の資質・能力に応じて実施、又は、実施しない

留意点　学習指導案は簡略的なもので、作成に時間をかけ過ぎない。

２　児童生徒理解、コミュニケーション

- ◆ 実習前の行事に参加
- ◆ 子どもたちとの歓迎会、お別れ会を実施
- ◆ TT での授業が基本（前半はＴ２※としてサブティーチャーとしての動きを学び、最後はＴ１※としてサブティーチャーに的確な指示が出せるように）
- ◆ 他学部・学年の見学と意見交換
- ◆ 指導教員との話し合いの機会を設ける

→指導教員とのコミュケーションを図るとともに、「子どもたちが学校外ではどう過ごしているか？」など、実習だけでは学べないことなどにも触れる。

留意点　児童生徒の個人情報や健康管理に対する配慮を実習生にしっかり伝える。

※Ｔ１＝チーム・ティーチングにおけるメインティーチャー
　Ｔ２＝チーム・ティーチングにおけるサブティーチャー

教育実習サポートガイド別冊（事例・アドバイス集）

※枠の色は前頁の枠の色と対応しています。また、特徴的な取組の一部を白地(下線)にしています。

事前

事前指導(大学)	講話をＥラーニング化し事前に実習生に見てもらう／行事に参加
学校事前打合せ	講話の一部を実施／示範授業／学級担任の業務の見学

講話の項目が多いので有効

実習前から取り組むことで、実習中にゆとりが生まれる

実習中

週	曜	朝	午前	昼	午後	帰り	放課後
第1週	月	紹介	示範授業	給食指導等	学級担任の業務の見学		指導教員との話し合いの機会／授業準備　学習指導案は略案型でシンプルに（指導教員のものを参考／講話の一部をＥラーニング化し、放課後の空いた時間に見る／日誌の記入の簡略化
	火		示範授業 実習生は学習指導案作成		学級担任の業務の見学		
	水		示範授業／Ｔ２で授業		Ｔ２で授業	短学活等の指導	
	木		Ｔ２で授業		Ｔ２で授業		
	金		Ｔ２で授業		他学部・学年の見学と意見交換		
第2週	月		Ｔ２で授業		Ｔ２で授業		
	火		Ｔ２で授業		Ｔ１で授業		
	水		Ｔ２で授業		Ｔ１で授業		
	木	全日経営※（研究授業は必要に応じて実施、又は実施しない） ※「全日経営」、「まとめの研究授業」の実施の有無については、法律では定められていません。					協議会
	金		Ｔ２で授業		Ｔ１で授業／お別れ会		反省会

TTでの授業が基本　Ｔ２→Ｔ１

指導教員とのコミュニーションが大事

教員がつく必要がなく、空いた時間を使える

事後

事後	

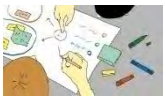
※事例はあくまで一例です。各学校の状況に合わせ適宜改変して御利用ください。

【特別支援学校】②

ポイント	大学との連携で効果アップ！　１週間実習→１週間大学→１週間実習

２週間という短い実習期間を補うため、事前事後の学校体験の活動を活用したり、２週間の実習の間に、１週間の振り返り及び準備の期間を設けたりと、弾力的な運用を行う事例です。受入校だけの判断では難しいことも、事前に大学担当者と相談することで可能になることもあります。

工夫している点



１　教育実習前の取組

学校体験の活動（ボランティア等）期間の利用

◆ 特別支援学校の様子を知る　　◆ 示範授業の一部を実施

留意点　実習までに、実習生が児童生徒の様子を把握できるよう計画を立てる。

大学担当者と連携した取組

◆ 学習指導案の下準備（大学教員に指導を受ける）

◆ 事前に大学担当者と連絡をとり、講話を調整（既習の内容を割愛）

留意点　指導教員が大学の教員と連絡を取り合い、情報共有する。

学校事前打合せ

◆ 講話の一部を実施

留意点　講話はなるべく短くする。

２　教育実習中の取組

授業実践

◆ 学習指導案は受入校の書式を利用し略案型で

→受入校の書式であれば、教員が作ったサンプルを提示できる。

◆ 最後まで基本はＴＴで実施

留意点　指導教員が軌道修正しながら、効率よく進める。

３　その他

大学担当者と連携した取組

◆ １週目と２週目の教育実習の間を１週間程度空ける

→大学教員と振り返り及び準備の期間ができ、実習生の休養にもなる。

◆ 基礎免許実習の前に、特別支援学校での教育実習を実施

→教員採用試験の前に特別支援学校の教育実習を実施できる。

留意点　早い段階に大学と相談する。

※枠の色は前頁の枠の色と対応しています。また、特徴的な取組の一部を白地（下線）にしています。

事前

事前指導(大学)	学校体験の活動中に特別支援学校の様子を知る／学校体験の活動中に示範授業／学習指導案の下準備（大学教員に指導を受ける）
学校事前打合せ	講話の一部を実施（大学で既習の内容を割愛）／受入校の書式／実習前から取り組むことで、実習中にゆとりが生まれる。

実習中

週	曜	朝	午前	昼	午後	帰り	放課後		
第1週	月	事前に児童生徒の様子が分かっているため、スムーズに実習に入ることができる。	講話／学級担当の業務の見学	給食指導等	学級担当の業務の見学	短学活等の指導	講話	授業準備　学習指導案は略案型で	日誌の記入は簡略に
	火		講話／示範授業		ＴＴで授業		打合せ		
	水		示範授業／ＴＴで授業		ＴＴで授業				
	木		ＴＴで授業		ＴＴで授業				
	金		示範授業／ＴＴで授業		ＴＴで授業				

大学担当者と相談し、１週目と２週目の教育実習の間を１週間程度空けることが可能であれば、大学教員と振り返り及び準備の期間ができ、実習生の休養にもなる。

実習中

週	曜	朝	午前	昼	午後	帰り	放課後		
第2週	月		ＴＴで授業		行事の事前指導		打合せ	（教員の見本を参考に）	
	火		行事の指導						
	水	最後までＴＴで実施	行事の事後指導／ＴＴで授業	給食指導等	ＴＴで授業	短学活等の指導			
	木		まとめの研究授業※（ＴＴ）※「まとめの研究授業」の実施の有無については、法律では定められていません。		ＴＴで授業		研究授業反省会		
	金		ＴＴで授業		ＴＴで授業		まとめの反省会		

事後

大学担当者と相談し、基礎免許実習の前に、特別支援学校での教育実習の実施が可能であれば、教育採用試験に向けてのモチベーションアップも図れる。

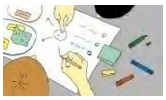
※事例はあくまで一例です。各学校の状況に合わせ適宜改変して御利用ください。

【養護実習】

ポイント	多くの子どもたちや教職員と関わりをもち、養護教諭の重要性を知る

養護教諭が教職員や全校の児童生徒との重要なパイプ役であることを実習生に伝え、養護教諭を目指すモチベーションアップにつなげる事例です。
保健室業務のみにとどまらず、保健室を飛び出し、校内の様々な人々とコミュニケーションを図ります。

工夫している点



１　教育実習前の取組

学校体験の活動（ボランティア等）が可能な場合
◆ 研究発表会の見学　◆ 健康診断の補助
留意点 日時を早めに実習生に連絡する。

学校事前打合せ
◆ 学校の一日（半日）見学
留意点 関係する教職員とあらかじめ打合せをしておく。

２　教育実習中の取組

様々な人々との関わり
◆ 校内巡回（健康観察）
◆ 校長、副校長、専任、学年主任等との連携の場面を見る
◆ 養護教諭研究会へ参加
◆ 職員会議、学年会等に参加
◆ 一般学級、個別支援学級での関わり
◆ 子どもの活動への参加・見守り→**安全管理、相談**
留意点 児童生徒の個人情報や健康管理に対する配慮を実習生にしっかり伝える。

３　教育実習後の取組

学校体験の活動（ボランティア等）が可能な場合
◆ 学校行事等への参加
留意点 日時を早めに実習生に連絡する。

４　その他の取組

◆ 異校種交流　◆ 学校医等との連携　◆ 安全点検　◆保健室事務 等
→**時間と機会があれば取り入れると有効**

※枠の色は前頁の枠の色と対応しています。また、特徴的な取組の一部を白地（下線）にしています。

週	曜	朝	午前		昼	午後		帰り	放課後			
事前指導(大学)			学校体験の活動（研究発表会の見学、健康診断の補助）									
学校事前打合せ			打合せ	学校の一日（半日）見学								
第1週	月		講話	保健室業務見学	給食昼食指導・掃除活動　子どもの活動（参加・見守り）	保健室業務見学			講話	打合	日誌記入	指導教員が、校長、副校長、専任、学年主任等と連携している姿を実習生に見せる。
	火	朝の会・朝学活の校内巡回（健康観察）	講話	保健室業務見学		保健室業務見学			保健委員会			
	水		講話	個別支援学級見学		保健だより、掲示物作成			打合せ	翌日の準備		
	木		ＴＴで保健室経営			健康診断の補助						
	金		ＴＴで保健室経営			クラブ・部活動の見学						
第2週	月		ＴＴで保健室経営			ＴＴで保健室事務			学年会			
	火		ＴＴで保健室経営			授業や学級担任の業務の見学						
	水		ＴＴで保健室経営			授業や学級担任の業務の見学						
	木		ＴＴで保健室経営			授業や学級担任の業務の見学						
	金		ＴＴで保健室経営			授業や学級担任の業務の見学						
第3週	月	朝の会・朝学活等の指導（一般級・個別支援学級）	示範授業	授業準備		ＴＴで保健室経営						
	火		ＴＴで保健室経営			ＴＴで保健室経営	授業準備		養護教諭研究会			
	水		ＴＴで保健室経営			ＴＴで授業	一人で授業					
	木		ＴＴで保健室経営			授業や学級担任の業務の見学						
	金		ＴＴで保健室経営			授業や学級担任の業務の見学			職員会議			
第4週	月		一人で保健室経営			学習指導案作成						
	火		一人で保健室経営			学習指導案作成						
	水		一人で保健室経営			保健学習研究授業						
	木		一人で保健室経営			一人で保健室経営						
	金		一人で保健室経営			一人で保健室経営			反省会			
事後			学校体験の活動（学校行事等への参加）									

実習前から取り組むことで、実習中にゆとりが生まれる

※事例はあくまで一例です。各学校の状況に合わせ適宜改変して御利用ください。

1　学校の管理職やベテラン教員からのアドバイス

教育実習を担当すると、様々な悩みが出てくることがあります。ここでは、そうした悩みに対して、市内の学校の管理職やベテラン教員からアドバイスをもらいましたので、是非、参考にしてください。

質問１　児童生徒に、実習生の授業を落ち着いて受けさせるには？
質問２　実習生の授業を、児童生徒にとってよりよいものにするには？
質問３　指導する側が気を付ける点や実行するとよいことは？
質問４　実習における過去の成功例、失敗例は？
質問５　実習指導の負担を軽減する工夫や秘訣は？

質問１　児童生徒に、実習生の授業を落ち着いて受けさせるには？

教員と実習生が同じレベルで授業ができないのは当然

☞　授業は、教科を教えるノウハウだけでなく、児童生徒理解が不可欠です。経験を積んでいる教員と同じレベルの授業を実習生に求めることはできません。児童生徒理解の重要性を実習生に教えつつ、**足りない部分を教員がカバーしていくことが大切**です。

少し落ち着かなくなることは想定しておくことが必要

☞　実習生は、教師というよりも、お兄さんお姉さん的な存在のため、慣れあいで学級でのルールの遵守が損なわれてしまうことに原因があると思います。**実習初期にきちんとした規範等を実習生に理解してもらう**指導を行うことで回避できます。日々の反省の折に、そのことに触れて返すことを心掛けることも大切です。また、**児童生徒にも、実習生を教師として迎え入れる態度を最初に指導**しておきましょう。節度のある関係を維持することが大切です。

一時的に落ち着かなくなることもあるかもしれないが…

☞　そのあとは、学級担任・教科担任の仕事です。実習終了後、子どもたち自身が振り返りを行って、**自分たちの生活を見直し、新たなめあて・目標を作っていく**とよいと思います。

通常と異なる環境下では起こり得ること

☞　学級経営がうまくいっていれば、**徐々に学校生活や学習のペースが戻り、落ち着いてくる**と思います。焦らず、子どもたちをしっかり見ていきましょう。

☞　「指導者が変わると子どもが変わる」ということを担任として認識し、**自分の足りない点をまず反省**してみるとよいです。そして、子どもたちと一緒に、クラスの課題として気持ちを新たに取り組み、ルールの確認など振り返りを行いましょう。

実習生も頑張っている

☞　実習前には、指導教員から「教師を目指し全力で頑張る人を是非応援してほしい」と**児童生徒に理解を求めておく**とよいと思います。また、実習中も、児童生徒のために、一生懸命教材研究等を頑張っていることを子どもたちに伝えましょう。

☞　**実習生と過ごした生活のよかった点を肯定的に捉え**、自分たちも頑張っていこうという気持ちを育てていくとよいと思います。

日頃の自分の指導は適切に行えているだろうか…？

☞　**実習前までにクラス作りをしっかり行っておくこと**が大切です。特にクラスでの様子に気を配り、児童生徒への声掛けやフォローが必要です。それができていれば、仮に少々落ち着かなくなっても、担任の声掛けですぐに元の状態に戻ります。

実習中、実習生に任せっぱなしになっていないだろうか…？

☞　実習中、全てを実習生任せにせず、**指導教員が日々一緒に関わり、実習生のフォロー**をこまめにしていくことが大切です。気になることがあれば、実習生にその都度助言し、軌道修正しましょう。

事前指導をしっかり

☞　実習生の言葉遣い、服装、声の出し方、児童生徒への対応の仕方、板書の書き方等、**細かいところまで、実習生を指導**することが大切です。

☞　実習生に各単元の導入の時間とまとめの時間の大切さを、**指導教員がしっかりと指導**しましょう。授業中、児童生徒に対しての教師側の働きかけについても、事前に指導することが大切です。

学校全体での支援体制ができているか…？

☞　**実習生の指導を学校全体で支援**していけば、児童生徒が落ち着かなくなることは避けられるでしょう。

☞　実習生に限らず、教員と児童生徒との適切な距離を保つことを、**日頃から職場全体で確認**することが大切だと思います。

☞　実習終了後は集会や行事を通して、学年全体で立て直していくことが大切です。

もし落ち着かなくなってしまったら…

☞　年度当初と同じようにグループワークなどで人間関係を作り直し、丁寧に指導を行いましょう。**急がず少しずつペースを戻す**とよいと思います。

☞　学級活動や特別の教科道徳などを通して、**日頃の生活を振り返る時間を**もちましょう。

☞　児童生徒の落ち着きのなさが実習期間中から表面化しているのであれば、児童生徒と実習生に対し、共に注意や指導をそれぞれする必要があるでしょう。実習終了後は、児童生徒の学習態度をきちんと修正するよう促し、**実習前の落ち着いた状態を思い出させていく**ようにしましょう。

質問２　実習生の授業を、児童生徒にとってよりよいものにするには？

実習生が指導する部分を考慮

☞　児童生徒の実態及び実習生の状況を踏まえて、**実習生が担当する部分、指導教員が担当する部分、チーム・ティーチングで担当する部分を工夫**することが大切です。

実習生にどう指導するかを事前に考えることが大切

☞　児童生徒に身に付けさせたいポイントを、実習生にどう指導していくかのシミュレーションを行い、**実習生が行う授業の組み立ての準備を入念に**行います。実習生の考えや意見に耳を傾けながらも、必ず押さえたいポイントは、外さないように指導しましょう。

指導教員の日頃の児童生徒との信頼関係が重要

☞　日頃、**指導教員が、児童生徒との信頼関係に基づいて学級や授業のきまりを作って**いれば、実習生の指導技術でも、授業は成立すると思います。

児童生徒の実態や学校環境の理解をすすめる

☞　授業づくりの前に、児童の実態、地域の特色、年間指導計画と評価等について、実習生に指導し、それらを踏まえた**無理のない計画を一緒に立てていく**ことが大切です。

実習生にすべてを任せない

☞　授業づくりを実習生だけに任せると、評価の場面の設定がないなどの形だけの授業展開になることがあります。**授業を組み立てる段階から指導教員が一緒に考える**ことが大切です。

足りない部分はフォローする

☞　実習生は、教員免許取得前の未熟な部分が多くあり、教員と同等の授業はできないという前提で指導することが大切です。**必要に応じて指導教員が授業に加わり、適宜フォロー**していくことが必要です。

指導教員も一緒に評価を

☞　児童生徒の評価を実習生だけが行うのではなく、**指導教員も一緒に評価を行い**ましょう。実習生が授業を担当しているからこそ、指導教員は授業中の児童生徒の様子を詳しく観察し評価を行えるメリットもあります。違った切り口で子どもを見ることができて、新鮮な発見などもあるのではないでしょうか。

段階を踏んだ指導を(中学校)

☞　同じ授業内容を他のクラスでも行うことが多い中学校では、まず指導教員の授業を見学させます。それを模倣する形（簡単な学習指導案は必要）で１時間の授業をさせ、終了後振り返りを行います。その後、今度は実習生自身で学習指導案を作らせ、それを吟味し、授業をさせる、というように段階を踏むと、実習生は成長し、授業の失敗も少なくなります。

実習生に任せる部分と指導教員が行う部分のバランスが大切

☞　実習生が担当した次(続き)の授業を指導教員が担当することで、指導が不足した部分を補うことができます。

☞　児童生徒が記載したワークシートへのコメント書きは実習生に任せ、評価は指導教員自身が行うなど、バランスよく分担することで、実習生の負荷の軽減や、児童生徒の評価の信頼性につながると思います。

☞　評価が難しいところはチェックをしておき、指導教員が指導するようにします。指導教員自身がＴ２として授業に参加し評価するのも有効だと思います。

授業での再度の指導が必要な時

☞　実習生を担当する場合は、ゆとりのある年間計画を立てるとよいです。授業での再指導が必要な場合は、ただ指導をするのではなく、目標を少し高く設定し応用的な内容にするなど、更に内容の充実した授業を行えばよいと思います。

☞　授業での再指導の必要も出てくることもあるかもしれませんが、子どもたちは繰り返し学習することで、学んだことを身に付けていくので、この機会にじっくりとできていないことを確認するとよいと思います。確認することで、的確な評価も行えると思います。

☞　普段、指導者自身の授業でも、思うように指導と評価の一体化ができず、後に足りなかった部分を補うことはあるはずです。それと同様に考えるとよいと思います。

☞　プリントや家庭学習による補充をするとよいと思います。

☞　朝学習の時間などを利用するとよいと思います。

☞　章のまとめや、復習プリント等によって重要項目などを確認し、テスト等を行うなどして、評価に生かすこともよいと思います。

評価は年間通じて総合的に行うもの

☞　学習指導要領に示された評価規準は、その単元だけで指導すべきものではないので、実習生が担当する単元での評価が不十分であっても、他の単元で補うことができると思います。

今後の自分にプラスになることも

☞　実習生の授業の指導は、指導教員にとっては負担がかかることかもしれませんが、指導教員自身の教材研究にもなり、自分の勉強にもなります。また、自身の経験に実習生の柔軟なアイデアが加わることで、今後の自分の授業のバリエーションを増やすこともできます。

質問３　指導する側が気を付ける点や実行するとよいことは？

指導教員自身のスキルアップのチャンス

☞　実習指導は、実習生に指導すべき内容が、自分自身はどれくらいできているか、日頃の自身の教育観や指導法は適切か、等を確認し見直すチャンスでもあります。また、実習生に分かりやすく説明や助言ができるかどうかも、日頃自身の指導が適切かどうかを考えるよい機会です。

人材育成の視点を

☞　実習指導は大変ですが、私たち教員もかつて教育実習を行い、現在に至っていることを忘れてはいけないと思います。将来有望な教員を、一人でも多く育てる気持ちで指導しましょう。

☞　将来一緒に仕事をする後輩を育てていると思い、実習生には、時には厳しくも思いやりをもって接し、一緒に夢を語れるような人間関係が作れるとよいと思います。

「教師になりたい」と思える実習を

☞　教職の素晴らしさややりがいを伝え、実習生には希望をもって教員を目指してもらいたいです。

☞　実習生に感動を与える場面を作ることが、教員を目指す動機の一つになると思います。

実習生をプラス評価し、よい面を引き出す

☞　実習時点で大切なのは、指導技術を磨くことよりも「自信をもって教壇に立つ」、「現在の自分に満足せずに向上心をもち続ける」、「夢を語ることができる」などの意欲です。実習生に対して、マイナス面よりもプラス面の価値付けを大切にしてほしいです。

☞　実習生の専門の実技を披露する場面を設定する等、実習生の特性を生かせるような指導をすることで、実習生が教員を目指す自信がもてるようになると思います。

☞　慣れない環境の中では緊張するのが当たり前です。実習生が自分の力を発揮できないまま終わってしまわないよう、よい面を引き出し、緊張感の中でものびのびと実習ができるようにしてあげましょう。

実習生が積極的に取り組めるように

☞　実習生の考えや思いを初めから否定するのではなく、実習生の考えや思いを受け止めつつ、適切な助言でよい方向に導いてあげましょう。

☞　指導教員から学ぶ姿勢と意欲がある実習生には、謙虚さだけなく考えて行動する積極性や自主性も伸ばしてあげましょう。

実習生への配慮

☞　不慣れな経験の中、うまくいかず悩みを抱えている実習生にとって、相談しやすい指導教員が近くにいることは、大変心強いと思います。

☞　実習生の中には、なかなか先に進めない人や意欲が高くない人もいるかもしれません。教員は様々な児童生徒を指導するプロですから、そうした実習生に対しても同様に粘り強い指導を心掛けてください。

☞　実習生の健康面への配慮や、ハラスメントにも十分注意してください。

☞　実習生は、頑張りすぎてしまうことがあるので、状況をみながら、退勤を促すなどの配慮が大切です。

☞　本校では実習生への指導は職員室などオープンな場で行うようにしています。

計画的に実習を進める

☞　実習生は経験がないので、全ての準備に時間がかかります。どの教科書を使うか、どの単元を扱うかなどは実習に入る前にできるだけ早めに連絡してください。また、実習中も実習生は目先のことで頭が一杯です。**指導教員が先を見越し、実習生のスケジュールを調整**してください。そうすることで、実習生は多岐にわたる活動を経験することができます。

実習生の授業の責任は指導教員がもつ

☞　実習生の授業であっても**あくまでも責任者は指導教員**です。「自分(指導教員)が責任をもつから思いっきりやってごらん」と実習生の背中を押してあげることも大切です。

部活動への参加を(中学校)

☞　部活動では、授業時とは異なる生徒の表情や態度を観察することができます。また、生徒理解や生徒指導の場にもなります。**指導教員と顧問が連携し、部活動にも参加**できるような体制を作りましょう。

着任時に役に立つ実践的な指導を

☞　採用後、すぐに現場に立つことを想定して、**実践的な仕事の仕方も指導**する必要があると思います。

指導は学校全体で

☞　**学年主任や教科主任等にも協力を依頼**し、学校全体で指導に当たる体制を作りましょう。

☞　**学習指導案を教科主任等にも見てもらい**、アドバイスをもらうとよいです。

☞　週１回程度、**教育実習全体を担当する教員も実習生に関わり**、指導をするとよいです。

☞　**指導教員以外の教職員とも関わりがもてるような環境作り**をしましょう。それにより、指導教員の負担軽減にもなり、実習生は様々な教職員から助言を受けることで視野が広がります。

児童生徒理解の重要性を指導

☞　児童生徒の実態の把握や、児童生徒理解に基づいた授業構想を学ばせることが大切です。

指導教員が手本に

☞　挨拶、言葉遣い、服装、板書、児童生徒対応等は、まず**指導教員自身が実習生のよい手本**となるようにしましょう。

個人情報の伝達範囲に注意

☞　学級経営や授業において、児童生徒理解の上で**最低限必要な情報以外は実習生に伝達しない**よう留意することが大切です。また、実習生が知り得た情報を外部に漏らさないよう指導することはとても重要です。

児童生徒の前での実習生指導

☞　基本的には、**児童生徒の前で実習生の言動を否定することは避けましょう**。児童生徒に対しては補足や修正が必要な部分を指導するなど、さりげなく実習生をフォローし、後で実習生を指導するなどして次に生かせるようにするとよいです。ただし、人権的な配慮や危機管理上、「今すぐに指導が必要」という場合は、指導教員がその場ですぐに対応する必要があります。

質問４　実習における過去の成功例、失敗例は？

【成功例】

実習生自身が成長を実感できるように

☞　日々の振り返りを密に行い、課題をその都度洗い出し、一つ一つ克服するようにし、最初から最後の授業までに、どうレベルが上がったか実感できるようにしました。

教育実習で自信を付けさせる

☞　教育実習で自信を付けた実習生が、次の年に臨時的任用職員として担任の仕事をするようになり、子どもたちと学習や遊び等を通して信頼関係を築くことができています。

☞　実習生の思いを尊重し、のびのびと活動させた結果、実習生自身の自信が高まり、採用後も頑張っています。

「絶対に教師になる」という状態で実習を終える

☞　実習前の打合せを入念に行い、事前準備をしっかり整えると、実習中に達成感を感じさせるレベルまで到達することができました。そして、最後は「絶対に教師になる」という思いを確かなものにして、実習を締めくくることができました。

児童生徒に実習生を応援させる

☞　「実習生には立派な教師になってほしい」という思いを生徒たちに醸成するよう心掛けた結果、自然に実習生を応援するようになり、実習が実りあるものになりました。

若い教員が相談相手に

☞　指導教員だけでなく、若い教員が、積極的に実習生に声を掛けるよう促しました。年齢的に近いので、よき相談相手になったようです。

児童生徒とたくさん関わらせる

☞　休み時間はとにかく児童生徒と思いきり遊ばせました。子どもは多く時間を共有してくれる大人には心を開くものです。

実習生の得意なことを活用

☞　絵が上手であるなど実習生の得意なことを活用して授業展開に生かした結果、本人は自己有用感をもって頑張ることができました。

子どもの様子を自由に語らせる

☞　日々の振り返りの時間に、その日の子どもの様子について自由に話す時間を設けました。そうすることで子どものちょっとした様子の変化に気付く大切さを学んだようです。また自分(指導教員)が気付かない子どもの様子を実習生から聞き、指導の参考になったこともありました。

実習生の今後を共に考える

☞　教員の資質として児童生徒に寄り添うことができる人間性は不可欠です。それが不得手な実習生にはその旨をきちんと伝え、その後の「生き方」の相談に乗りました。

いつでもフォローできる準備を

☞　実習生にとって、**経験やアイデアの引き出しが少ないのは当然**のことです。そのことを念頭に置き、常に手を差し伸べられるように準備しておきました。

実習生の資質に合わせた指導を

☞　子どもに寄り添うことのできる実習生には、多くを語らず指導教員の姿を見せて学ばせるようにし、逆にどう動いたらよいか分からない実習生には、**丁寧な言葉かけやフォローを十分に行う**等、実習生の状況に応じてアプローチの仕方を変えました。

学年全体で指導(小学校)

☞　一人の実習生に対し、**各教科を学年の教員で分担**し、指導に当たりました。

教育実習で職場が活性化

☞　小規模校ですが、３人の実習生を受け入れました。**実習生の前向きな姿勢に刺激を受けて、職場全体が活性化**しました。担当だけでなく、みんなで実習生を育てようという機運が高まり、職場全体が前向きになりました。

実習が自分の授業を見直すきっかけに

☞　実習生を指導したことで、**指導教員も初心にかえり**、これまでの自身の授業を見直すよい機会になりました。

【失敗例】

実習生の批判は禁物

☞　実習生の批判を口外することは、児童生徒はもとより、保護者への信頼を損ないかねないので、厳に慎む必要があります。**気付いた点は直接実習生本人に指導**すべきでした。

実習生への指導の徹底不足

☞　実習最終日、担任が気付かないうちに、実習生が児童との連絡先交換を行おうとしていた、ということがありました。**個人的な連絡は禁止であることの徹底**をしておく必要がありました。

実習生からの連絡の確認不足

☞　実習生が欠席の電話連絡が当日の朝あった際、指導教員ではない職員が受け許可しました。しかし、その内容が指導教員に伝わらず混乱しました。

授業中の不測の事態への事前確認不足

☞　本校は、障害の重い子どもが多いので、急な体調不良や発作があることがあります。研究授業の際にそのような場合にどのように対応するか（授業の進行の判断、対応の役割分担等）の事前の詳細確認が不十分であったため、慌てたということがありました。

質問５　実習指導の負担を軽減する工夫や秘訣は？

学校全体で関わる

☞　本校では、示範授業、研究授業等は、全教員や管理職が関わるシステムをとっています。

☞　職員室に、教育実習生が学習指導案作成や授業準備ができるスペースを用意し、様々な教員が声かけができる指導しやすい環境を整えるとよいです。

☞　実習計画を全教員に配付し、意図的に様々な職員が関わるようにしています。「学校全体で未来の同僚を育てる」という意識がもてるように全員に呼びかけています。

☞　実習生が示範授業を見た際にはその教員の指導を受け、実習日誌にもその教員からコメントをもらう等、指導教員が毎日書くのではなく、様々な教員が関わって日誌を記入することにより、指導教員の負担は軽減されます。

☞　学年として実習生を受け入れ、教科ごとに分担して指導するなど、チームで対応することで、個人の負担軽減につながります。（小学校）

☞　一日中該当学級にいるのでなく、他クラスや他学年の参観、保健室、個別支援学級などでも実習させ、学校全体で受け入れる体制を作ることで、指導教員の負担が軽減されます。（小学校）

☞　給食や清掃の時間など、他のクラスに行く機会も与えたり、担当クラスで実施した授業内容を他のクラスでも実施したりすることで指導教員の負担が減ります。（小学校）

☞　実習計画や示範授業等は、級外の教員が企画立案し、学習指導案検討は学年研で、というように、全職員で仕事を分担するとよいです。（小学校）

☞　教科指導担当、生徒指導担当など、教育実習チームのような組織をつくり、一人で請け負うのではなく、チームで実習生の指導に当たるのがよいです。特に、経験の浅い教員が指導教員になる現状では、メンターチームの内容の一つと考えてもよいと思います。（中学校）

☞　教科担当全員で指導に関わると一人ひとりの負担は少なくなると思います。（中学校）

学校でマニュアルを

☞　「教員としての心構え」「学校・学年のきまり」等のマニュアルを作り、全教員が同じ指導ができるようにするとよいと思います。

会議設定の工夫

☞　指導教員が出席する会議や全体の会議・研修等を実習期間中にできるだけ行わない等、会議設定を工夫するとよいです。

事務の軽減

☞　研究授業等の学習指導案を紙で配付すると、印刷や綴じ込み等に時間がかかります。そこで印刷せずPC（サーバー）での閲覧にし、必要な場合は各自プリントアウトすれば、時間と紙の節約になります。

指導教員自身のためにもなると思えば

☞　自分の指導をもう一度見直すという視点で実習の指導をすると、実習はとても勉強になります。さらに、自分が教師をどうして目指していたのか、今後どうしていきたいのか等、原点に立ち返るよい機会であると前向きに考えると、負担以上に得るものが多くあります。

☞　実習生が来てくれることで「自分たちも得るものがある」というスタンスを大切にしましょう。逆に、実習生だからと言って、過度に何でも仕事をさせるということは避けるべきです。まだ学生ですし、節度や心身の負担も考えなければならないと思います。

指導教員が達成感を得られるように

☞　児童生徒を指導するのと同じで、地道に一生懸命指導することで実習生の伸びが感じられたとき、指導教員のモチベーションが上がります。

☞　「後継者を育てる」という誇りをもつことで、精神的な負担は少なくなると思います。

ワークライフバランスを保つ

☞　たとえ実習の指導教員になってもワークライフバランスを犠牲にしてはいけないと思います。与えられた時間、活用できる時間内で、できるだけ関わるようにしましょう。

スケジュール管理をしっかりと

☞　指導教員自身の仕事の作業時間を確保するためにも、実習生に先々の予定をあらかじめ伝え、自身と実習生のスケジュール管理を徹底し、実習生もその中で動くようにするとよいです。

☞　第 1 週目にスケジュールを決めて何を行うかの話し合いをしました。そのことによりお互いに見通しをもって活動することができました。

事前準備を十分行うと活動がスムーズに

☞　事前にしっかりと準備をしておくことで、実習がスムーズに進行し、早い段階で授業のスキルが向上します。

実習生がいることを上手に生かす

☞　普段は一人で児童生徒の指導を行いますが、実習中は実習生と二人で授業を行うことができます。一緒に授業計画を立案することで指導教員自身の指導を見つめ直せたり、実習生の授業時に、普段とは異なる角度から児童生徒を観察できたりするなどメリットも多くあります。

学校ボランティアで教員のサポートを

☞　実習前からボランティアを行ったり、実習後も実習の経験を生かしてボランティアを継続して行ったりする実習生もいます。無理は禁物ですが、こういったことが可能であれば、実習生、学校の双方にメリットがあります。

2　大学教職員・学生からの声

これから教育実習を行う学生や、実習後の学生はどのようなことを思っているのでしょうか。大学・学生から見た教育実習はどのようなものなのかを紹介します。

※記載は横浜市と連携している大学の教職員からのコメントです。ここで取り扱われている内容には、横浜市以外での実習内容も含まれていますので、あらかじめ御了承ください。

1　実習校での指導の中で、学生にとって効果的だと感じたことやよかった点

大学教員にとってもよい機会

☞　大学教員が実習訪問をし、学校の管理職の方や多くの教員から、たくさんの助言を頂けることは大変ありがたいことです。**授業に関して、いろいろな視点から評価・分析できるということを、目の当たりにできるよい機会**と捉えています。

研究授業後の反省研究会が有意義

☞　実習生の研究授業後、当該教科だけでなく他教科の教員、管理職を含めた反省研究会を実施していただき、大変有意義でした。

教職へのモチベーションがアップ

☞　学校現場の雰囲気や、児童生徒との関わりを通して、学生の職業意識が飛躍的に向上し、教職へのモチベーションが強化されました。**学校現場の教育課題を直接知ることで、それらの課題を自分のこととして学生が捉える**ようになりました。

「何が大切なのか」を実感

☞　実際に学校に入ることでしか学べないことが多々あります。それぞれの体験で「何が大切なのか」ということを、指導を通して実習生が実感することができました。

魅力のある教員との出会い

☞　実習生を育てようという意識が高い教員や、温かいクラス経営をしている教員と出会った学生は、**教員を目指す気持ちがより高まる**ようです。

様々な指導法を学ぶ

☞　「児童生徒の状況に応じた指導法」、「具体の場面に適応した授業づくり」、「児童生徒への発問」、「グループワークの方法」など多くの効果的な技術を実習生が学びました。

実習生が悩みを相談

☞　学校が相談しやすい環境を作ってくれたので、実習生が救われました。

☞　実習生としての生徒との距離感のことで悩んでいたことについて指導を頂くことができました。

丁寧な事前通知

☞　担当する学年・単元について事前にお知らせいただいた場合は、**実習に向けた準備を重ねることができ、学習効果が高まった**ように感じられます。

きめ細やかな指導･評価

☞　実習生の勤務態度、事務能力を含め、**評価できる点、改善すべき点の双方について、具体的な事例に基づき詳細な指摘**を頂き、参考になりました。

実習生同士の模擬授業の実施

☞　実習生同士の模擬授業を企画していただき、お互いに刺激になり、意欲も高まりました。

様々な教員からの指導

☞　他教科の授業の見学や、様々なタイプの教員から指導を受けることは、学生にとって大変有効だと思います

同一校での連続した関わり

☞　一つの学校で、学校インターンシップ、学校ボランティア、教育実習を行わせていただき、大変多くの教員の方々から学ぶことができました。

多くの機会を体験

☞　授業だけでなく、休み時間や放課後も含めて、様々な場面で子どもたちと直接関わる機会を用意していただきました。また、その機会を通じて**具体的に支援の仕方を指導**していただきありがたかったです。

管理職からの指導

☞　管理職の先生から、板書や発問の方法、生徒理解などについて、学校現場において基本的なことを厳しく指導していただきました。

教職の厳しさを実感

☞　教育実習を体験することで、職業としての教員の厳しさを実感でき、職業意識が向上しました。

☞　対面でのコミュニケーション能力など、**社会人としてのマナーや礼儀についても指導**していただきました。

2　教育実習で学生が困った点と大学から実習校へのお願い

ここでは、実習生が教育実習を行った際に困った点を掲載しています。参考にしていただき、御配慮をお願いします。

帰宅時間が遅い

☞　帰宅が深夜になるケースがありました。**特に女子学生の帰宅時間は配慮していただけると助かります**。

土･日の活動への参加

☞　土・日の部活動への参加は、**体力的に大変きつかった**ようです。

使う教科書が分からない

☞　使用する教科書や実習中に扱う指導内容が事前に分からず、準備に困る学生がいました。早い段階で指示していただけると助かります。

自治体特有の学習指導案

☞　指導教員が指定する学習指導案の形式を使用する場合は、事前に御指導いただけると助かります。

複数の指導教員がいる場合

☞　複数の教員が指導する場合は、連絡先の教員を明確にしていただけると助かります。

次に何をしたらよいのか

☞　指導教員が不在の時、実習生が何をしておけばよいのかの指示をしていただけると助かります。

指導教員との関係がうまくもてない

☞　学生の資質の問題もあると思いますが、稀に高圧的な指導や人格を否定される学生がいました。そのような場合、複数対応していただけることで問題が軽減することがありました。

高い技術を求められる

☞　教材研究や教科指導において、非常に熟練したレベル、高い実践力を求められることがあります。

未履修部分の指摘

☞　教育実習の時点でまだ履修していない科目があることを御了承ください。

配慮を要する案件

☞　児童生徒の個人情報の守秘については大学でも指導しますが、実習校から子どもの写真や手紙をいただき、個人情報保護の点で困ったことがありました。

部活動への参加

☞　「授業以外の生徒の姿を見ることができた」という意見とともに、「教材研究と両立するのが難しかった」という意見がありました。

どこまで指導してよいのか

☞　実習生自身が本当の学級担任・教科担任ではない中で、どこまで立ち入った指導をしてよいのか迷ったようです。

学生の指導に関する技術不足

☞　教育実習後に学生が抱く反省点として、学生自身の声が小さい等、普段とは異なる発声方法や生徒に話しかける指導技術が足りなかったという意見がよくみられます。

大学教職員から～教育実習の御協力お願いいたします～

☞　いつも実習に協力をいただき大変ありがたく思っています。学生のよい点や改善点を的確にアドバイスとして伝えていただけることが、学生の成長につながると思います。学びたいという学生に対して、本気で付き合っていただきたいと切に願っております。

☞　教育実習は、学生にとって自分が教員としてやっていけるかを試す場になります。お客さんとしてではなく、将来の後輩を育てる気持ちで、厳しく御指導していただくことを期待します。

☞　貴重な時間をいただき、熱心に指導してくださり大変感謝しております。未熟な点は多々あると思いますが、根気よく指導していただけるとありがたいです。

☞　学生にとって、学校の中で過ごす教育実習期間は、大変貴重な体験となります。教育実習後、「教師になりたい」という気持ちが高まる学生が多くいます。限られた期間ですが、実践的な子どもへの関わり方等、様々な活動を体験させていただけるとありがたいです。

☞　学校全体として、たくさんの方々に関わっていただけると、学生の視野が広がると思います。

☞　経験の浅い教員が、年齢の近い学生と一緒に取り組む姿勢で指導していただくと、熱意が伝わりやすく、学生も意欲的に取り組めると思います。

☞　研究授業後、校長先生をはじめ指導教員との振り返りの時間をできるだけ設定していただけると、実習後の学びにつなげることができます。

☞　大学側が責任をもって、事前指導を行うことが最も重要と考えています。

☞　授業・学習指導は、クラス経営・学校経営、特別活動、生徒指導・教育相談などの様々な指導があって成り立つものであること（その繋がり）を、学生が多少なりとも実感できるような指導をいただければ理想的だと考えます。

☞　実習において可能な範囲での児童生徒理解に基づいた、教職のやりがいと大変さの両面について、学生に具体的に伝えていただきたいです。これまでのどのような指導が現在の児童生徒の姿（成長）に繋がっているのかを学生に伝えていただければありがたいです。

☞　多様な個性をもつ児童生徒に対する個に応じた対応について、現場に即した実践的な指導方法を伝えていただきたいです。

教育実習サポートガイド別冊
（事例・アドバイス集）

作成・編集

横浜市教育委員会事務局　教職員人事部教職員育成課

協力

横浜市大学連携・協働協議会　　横浜市立学校

教育実習サポートガイド等はＹＣＡＮの教職員育成課のページ、又は、横浜市教育センターWeb ページからもダウンロードができます。

［参考］

・教育実習サポートガイド【小中学校・義務教育学校・高等学校教諭、栄養教諭編】

・教育実習サポートガイド【養護教諭編】

・教育実習サポートガイド【特別支援学校編】

YCANから　区局 Web➡教育委員会事務局➡教職員育成課➡大学連携関係➡教育実習

Web から　「横浜市　教育に関する広報」で検索→「教員養成大学等の教職員の皆様」をクリック

画面をスクロール→目次→「教育実習へ」